

# 私の意見論評

## 「リフォーム」エッセイ

石川佳代子 (彦根市鳥居本町)

エコライフ大使になって、私は、どんな努力をしているのか考えてみました。二点思いつくことを述べます。まず一つは、和服から洋服に作り替えて普段着として着ています。多くの中年以上の女性は、高価な和服をタンスに寝かせておられます。私もその一人でした。今はリフォーム洋裁教室で、私の能力に応じて和服からブラウス、スカート作りを学んでいます。もう一点は、私の家のリフォームです。殆ど使っていない農小屋をリビングルームに造り替えることを今、計画しています。壁や柱や梁の残せるものは

残して、取り替えなければならぬものは、取り替えようと思っています。建物をそのまま壊してしまうことは、余分なゴミを出すことになります。環境に配慮した生活を送っていくよう心がけたいものです。



和服からベストとスカートを作りました

## 子供の頃の北之庄沢に…

伊崎 一男 (近江八幡市鷹飼町)

「北之庄沢が泣いている。少しでも昔の沢を取り戻したい」との願いを込め、近江八幡市北之庄町の有志の方が集って北之庄沢を守る会を結成し、まず手始めに二月十日、同沢のヨシ焼きを会員総出で行いました。

北之庄沢は、近江八幡市から安土町にまたがる琵琶湖の内湖の「西の湖」の一角にあって、以前は広々としていて今の

ようにヘド口でできた島もなく、水は美しく、底が見えるくらいで、泳いだり、飲むこともでき、多種多様な魚が泳ぎ、美しいヨシが生えていた自然いっぱい湖岸だったとのことで、遊ぶ場のなかった戦前、戦中、戦後は釣りなど子供たちの良き遊び場だったといわれています。私たちの子供の頃も、二キロほど離れたこのような湖畔でフナやモロコ釣りを



会員総出のヨシ焼き

を楽しんだもので、今は良き思い出となっています。何とか子供の頃の北之庄沢に…の思いで、同町の有志が「北之庄沢を守る会」の結成を呼びかけ、二十歳代の若者から七十歳代のお年寄りまで七十二人が参加しました。冬の雪解けを待って二月十日、会員が北之庄沢一帯に集まり、大きな願いを込めて、九隻の和船に分乗して、ヨシに次々と点火、沢一帯一ヘクターほどを約一時間で焼きました。秋には釣りなどを計画していますが、この活動を他人事に終わらせず、県民ぐるみでかつての琵琶湖を取り戻したいものです。